

教科別研修講座報告

平成 30 年 8 月 17 日 (金)

C201 小学校算数科研修講座

「やりたい」「考えたい」「伝えたい」を目指す、新領域データの活用

〈内容の詳細と講師〉

1 全国学力調査と県学力調査から見た課題について(講義)

・H30 年度全国学力調査で課題となったことについて、福井県学力調査の結果もふまえて、改善案を提示

2 データを活用した授業づくりの基礎(講義・演習)

岐阜県中津川市立第二中学校教頭 中西 善裕氏

- ・データを批判的に見ることについての具体例を提示
- ・身近なデータ(県のデータ、市町のデータなど)を用い、児童が主体的に学習する教材開発の工夫
- ・エクセルを使った簡単な棒グラフの作成(演習)



3 データを活用した授業づくり(講義・演習)

国立教育政策研究所学力調査官 佐藤 寿仁 氏

- ・代表値、箱ひげ図などの用語の解説や使い方
- ・PPDACサイクルを意識した授業改善について
- ・学びのプロセスを軸に授業をつくる(演習)

〈受講者の声〉

・平均値や中央値、最頻値などの代表値について分かりやすく教えていただきました。難しく考えていた統計教育に興味を持つことができました。

・グラフの見方に対する考えが変わりました。また、指導要領に記されている「多面的・批判的に考察する」ということについて実践例を交えながら詳しく教えていただけだったので、よく分かりました。

・算数の授業においては、今まで教科書に載っている統計資料でしか授業をしていませんでした。児童の目線に立って生活に生かせる資料を活用しながら授業をしていきたいです。福井県のデータを使ったグラフづくりの演習もすぐに授業で使えそうなので良かったです。

・「実際の学調の問題を使って授業をつくる。」という視点は、私は今までありませんでした。今日、実際にやってみて、子どもたちの探求を大切にしながら考える楽しさを味わえる授業ができると思いました。

・算数が専門でない私にとっても分かりやすく教えていただけました。今日の講義を聞きながら、「自分の今までのデータの見方は?」「今までの授業は?」と振り返りながら学びを深めることができました。

